

# 着信アリ

監督：三池崇史

柴咲コウ 堤真一 吹石一恵 岸谷五朗 (特別出演) 石橋蓮司

企画・原作：秋元 康 (角川ホラー文庫刊)

製作：黒井和男 / エグゼクティブプロデューサー：大川 裕 / プロデューサー：佐藤直樹 有里陽一 井上文雄 / 脚本：大良美波子 / 撮影：山本丞夫 / 美術：稲垣尚夫 / 音楽：遠藤浩二  
照明：松隈信一 / 録音：中村 淳 / 編集：島村泰司 / 音響効果：藤崎寛治 / 装飾：山田好男 / CGIプロデューサー：坂 美佐子 / キャスティング：杉野 剛 / 助監督：加藤文明 / 製作担当：鎌田賢一  
主題歌：『いくつかの空』 柴咲コウ (ユニバーサル / キメラエージェンシー) / 製作プロダクション：角川大映映画  
製作：「着信アリ」製作委員会 (角川大映映画 日本テレビ放送網 電通 S・D・P) / 配給：東宝

DOLBY DIGITAL 202897-202 ©「着信アリ」製作委員会

第16回東京国際映画祭 特別招待作品

来る。

3日後の自分からの着信。  
残されたメッセージは死の予告。

あなたの携帯にも「死」が届く。



携帯はこちらへ

a@pmag.jp

www.chakuari.jp

# 来る。

非常口→

ふと気が付くと

携帯に表示されている“着信アリ”のメッセージ。

発信先は不思議なことに自分の携帯番号。

そして、着信時刻は3日後。

メッセージを再生すると、

明らかに自分自身の声が聞こえる。

しかも、その声は救いようのない恐怖に彩られている。

そして、3日後のその時刻。

現実に死の瞬間が…

『リング』シリーズの大ヒットも記憶に新しいジャパニーズホラームービー。その一連の作品のクオリティーの高さは、国内にとどまらずアジア各国、果てはハリウッドまで魅了している。『リング』のハリウッド版リメイク『The Ring』は全世界でヒットを飛ばし、『呪怨』もまたハリウッドがリメイク権を取得、とジャパニーズホラーは今や世界が注目するジャンルになっている。そして、その最先端ムービーとして新生・角川大映映画が製作を手掛けるのが本作『着信アリ』である。

本作で観客の恐怖の入口となるのは、今や持たない者を探すのが困難なほど身近なツールとなった“携帯電話”。

ある日、友人の携帯に届いた奇妙なメッセージ。そこには、その友人の声で身の毛もよだつような悲鳴が録音されていた。発信者の番号は友人本人の番号。着信時刻は3日後の時刻。その場はいたずらだと軽く片付けたが、数日後その友人は録音とまったく同じ悲鳴をあげて着信時刻の日時に死んだ。同様のことが次々起こる。携帯を通じて伝播する死の予告。そして、とうとう自分の携帯が鳴った…

企画・原作は、様々な分野で活躍するヒットメーカー・秋元康。自身がふとしたことから着想したアイデアを映画の形にまで昇華させた。監督は良質な作品を、驚異的なペースで送り出し続ける、三池崇史。本作を最初で最後のホラーとしてありとあらゆる恐怖を注ぎ込んでいる。

主演は、映画・テレビドラマ・CMといった女優活動と最近では音楽活動でも活躍のめざましい柴咲コウで、これが自身初の主演映画となる。共演は、その演技力が高い評価を受けている実力派・堤真一。また柴咲の親友役で吹石一恵、さらには怪しい死体マニアとして岸谷五朗も特別出演。

最強のスタッフ・キャストを迎え、ジャパニーズホラーの頂点がここに極まる！

あなたは  
自分が死ぬ時の声、  
聞いた事がありますか？

